

感染性心内膜炎について



1 感染性心内膜炎とは？

聞きなれない病名ですが、文字通り「心臓の内側に細菌が感染すること」であり、「その結果、全身性の重症感染症や心臓弁の破壊や心不全を引き起こす」こととなり、長期間の治療が必要であったり、死に至ることもある重症感染症です。

人口当たりの発症率は高くありませんが、発症性別では男性が多く、女性の2倍程度となります。(高齢者では男性は女性の8倍にもなります)

診断や治療が難しいこともあり、特に高齢者では早期発見が重要な病気と言えます。

2 原因は？



直接の原因は、レンサ球菌や黄色ブドウ球菌などの細菌が血液内に入り込み「菌血症」「敗血症」となり、心臓感染が起こるのですが、細菌が血液中に入り込む原因はさまざま、皮膚、口の中、歯茎などの傷であったり内科、外科、歯科での治療や手術が原因になる事もあります。

また、一般の方では重症感染症に至らない事でも高齢者の方や心臓弁膜症の方、人工弁置換術施行した方では感染が重症化しやすかったり、心臓への影響が出やすいので危険度が高くなります。

3 症状は？

微熱から高熱、寝汗や疲労感、倦怠感および体重減少など。悪寒や関節痛が起こることもあります。(いわゆる風邪と似たような症状と言えます。)

「急性」「亜急性」とともに似た症状ですが悪化のスピードが「急性」では速くなります。



4 進行は？

感染原因となる細菌の種類などによって病気の進行度合い、重症度が2つに分けられます。

- 急性：数日から数週間で急激に感染が進み重症化しやすい。高齢者に多く、死亡率は高い。
- 亜急性：数週間から数ヶ月で緩徐に感染が進む。若年者に多く、死亡率は低い。

5 診断は？

初期の症状は風邪に似たものですので診断は難しくなります。多くの場合、症状と最近の病歴(心臓疾患、心臓手術、その他の手術の有無)から疑いがある場合は、尿検査、血液検査で感染有無確認(菌種判別)。心音(心臓弁雑音)エコー検査などで確定診断に至ります。



6 治療は？

入院の上、抗菌薬を大量かつ長期間(数週間)投与することが基本になります。検査、診断の間から抗菌薬を投与し進行を抑制することもあります。また、感染治療のほかには心臓やその他の臓器への手術が必要になることもあります。

いずれにしても長期間厳しい治療をすることになります。

7 予防は？

普段から口腔内ケアとともに危険度の高い方は早めに医師へ相談することをお勧めします。

特に発症初期は単なる風邪程度に思いがちですが高齢者、心臓疾患有病者や心臓置換術施行者の方は早めの受診を心がけてください。更に、ご自分の年齢や病歴などは受診の際に医師、看護師へ伝えるようにしてください。(看護師 藤島 敦子)

ふれあい曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://www.h6.dion.ne.jp/~soyama>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2017年1月号
(第106号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



藤島・棟近
西岡・福井
谷岡・赤松
山内・廣岡

謹賀新年

皆様の健康と幸福を
心よりお祈りいたします
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます



2017年 元旦